



医療×福祉×保育を叶えた 東京初!? すべての子どものための複合施設!



社会福祉法人天童会 SLPセンターアーク センター長
渡会 博子 わたらい・ひろこ



「まさか自分がセンター長になるなんて・・・!」と話す SLPセンターアークの渡会さん。竣工して約1年が経った今、医療×福祉×保育の複合施設をどのように運営しているのか、現状をインタビューしてきました!
◀天童会HP

SLPセンターアークって どんな施設?

医療的ケアや特別な支援が必要なお子さんを含めた未就学児に対して、通園（児童発達支援、事業所内保育所）、小児科クリニック、訪問（保育所等訪問支援、居宅訪問型児童発達支援）児童相談を行う複合施設。あらゆる専門性をもつ職員がいるため、「誰もが」安心して通える施設となっています。



子どもが幸せになれる 事業を考える

元々は理学療法士として秋津療育園の重症心身障がい者のリハビリを担当していましたが、2018年から、ここの立ち上げメンバーに。「子どもが幸せになれる事業を!」と始まり、医療・福祉・保育の複合施設が生まれました。障がいの有無関係なく、どこで生まれても、地元で安心して生活ができる社会を目指しています。また、保護者にとっての幸せももちろん大切。営業時間を長めに設定して、仕事と子育ての両立を叶えたいママを応援しています。

今後の課題は?

2021年1月に竣工して約1年経過。預かるお子さんやご家族の視点に立てて日々試行錯誤してきました。営業時間が長いと研修時間の確保には工夫が必要と感じています。2年目を迎える今、スタッフの働き方を改めて見直し、運営モデルを作っていきたいです。

子どもたちの お気に入りの場所は?

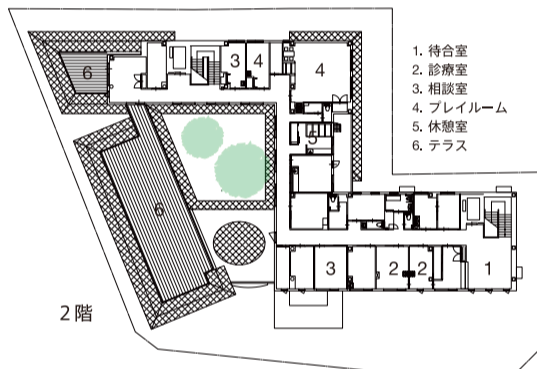
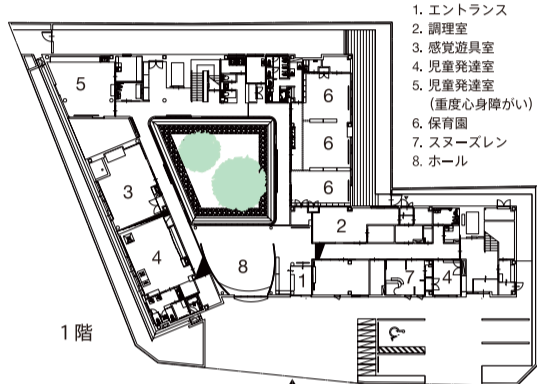
1 すべり台とあなぐら

階段の横に作られたすべり台と狭くて落ち着くあなぐらスペース。日常生活の動線にある遊び場で「遊びたい!」という気持ちが刺激されます。



1 スヌーズレンルーム

子どもから「きらきらルーム」と呼ばれている人気のお部屋で、東洋大学の嶺先生が製作したパブルチューブもあります。各々のペースで遊びながら心を落ち着かせています。



自然と交流が生まれる

普段は別の部屋で生活をしていても、施設内で自然とお互いの存在を認識し、交流できる環境となっています。例えば、エントランスが1つであること、中庭を中心に回遊できること、遊び場が日常生活の動線にあることなど、合同で行う誕生会や季節の行事は、子どもたちの交流が深まるだけでなく、スタッフ同士が連携しながら学び刺激し合う機会にもなっています。



子どもにはどんな効果が?

普段は自分でコップを持ってお茶を飲むことをしない児童発達支援のお子さんが、保育園のお子さんとお話した後、自分でコップを持ってお茶を飲もうとしたことがありました。また、保育園に通うお子さんの会話の中に、普段は一緒に生活をしていない児童発達支援のお子さんの名前が出てきた時はとても嬉しく思いました。自然に交流できる環境があるからこそ生まれた出来事だと思います。このような経験の積み重ねで、良い影響を与え合って、障がいの有無で分けることなく、ともに育ち合える場所にしていきたいです。

スヌーズレン最新事情!

東洋大学 ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科 教授

嶺 也守寛 みね・やすひろ



SLPセンターアークのスヌーズレン導入・運用にも携わり、日本のスヌーズレン研究の第一線で活躍されている、東洋大学の嶺也守寛教授。スヌーズレンの開発から製作までも行う嶺先生に、スヌーズレンの最新事情を聞いてきました!
◀ISNA日本スヌーズレン総合研究所HP

定義としては、1970年代にオランダのJan Hulsegge & Ad Verheulが、1日中ベッドで横たわり、全く刺激のない環境で過ごす重度知的障がい者のために実践した多重感覚環境のことを指します。私の研究室では、スヌーズレン器材の三種の神器の1つとも言われている「パブルチューブ」を国産スヌーズレン器材として開発しているところです。パブルチューブの仕組みとしては、アクリルチューブの中に水を満たし、下からエアポンプで気泡を出しながらLEDランプの光を当てると幻想的な雰囲気を作り出します。LEDランプに照らされた上昇する気泡が視覚を刺激し、気泡が出る時の音やエアポンプの振動に

「そもそもスヌーズレンって何なのでしょうか?」

スヌーズレンとは?



よって聴覚や触覚を刺激するスヌーズレン器材です。
スヌーズレンという言葉自体は広まってきましたが、スヌーズレンに対して明確なイメージを持っている方は意外と少ないと感じます。日本にスヌーズレンが入って三十年以上経っている今も、国内におけるスヌーズレンに関する環境や器材の研究開発は、全く行われていないのが現状なんです。

高年齢施設・保育園・企業効果は子どもから大人まで

「日本での普及はまだこれからとのことでしたが、世界的にはどう発展しているのでしょうか?」

もともとは、重度の知的障がいを持つ人のための考え方でしたが、今ではヨーロッパを中心に、高齢者施設や幼稚園など、あらゆる所で導入されていて、高齢者にとっては、認知症対策になると言われています。さらには、企業のオフィスにも導入され、労災が減ったという報告もあるんです。心の問題は人間みんな共通です。大人も子どもも、障がいのある人もそうでない人も、スヌーズレンは有効だと言えらると思います。

「実際に使用している施設の方からは、どんな声がありますか?」

今年、私の研究室の学生がSLPセンターアークで調査を行いました。その中では、「スヌーズレンルームを利用することで、児童一人一人について好みや性格、特性をよく知り、理解することができ」、「スヌーズレン器材の前にいる子どもを観察することで、視力や聴力の程度を把握することができる」という声もあり、メリットは職員にもあると言えます。さらには、職員の方々が帰宅前に利用することもあり、一日をゆっくり振り返ったり、気持ちを切り替えたりできる場にもなっているそうです。子どもへの効果だけでなく、大人への効果も広く伝えられていけたらと思います。

「スヌーズレンにはどのような空間が求められますか?」

通常だと、何もない部屋にどうスヌーズレン器材を導入するかという相談が来るので、SLPセンターアークで設計

スヌーズレンは フレキシブルな空間で



「まだまだ未開拓のスヌーズレンの分野に、嶺先生が今後どのような一石を投じるか、期待＆注目しています!」

「今後スヌーズレン研究をどのように発展させていきたいですか?」

これまで主にパブルチューブの開発を中心に進めてきましたが、パブルチューブ以外の器材の開発にも力を入れていきたいと思っています。最近では、光ファイバーの技術をもつ企業から、スヌーズレン器材の開発に役立てないかという問い合わせを受け、新たなスヌーズレン器材の開発を進めているところです。日本には、あらゆる分野の専門的な知識と技術を持っている企業が多くあります。それぞれの専門性とアイデアを持ち合わせれば、国内でも高品質で手頃なスヌーズレン器材が作れると思います。海外産の市販品に頼らざるを得ない現状を変え、障がい者施設だけでなくあらゆる施設がスヌーズレンを気軽に導入できるようになることを期待しています。

「スヌーズレンの可能性を広げたい」

「スヌーズレンの可能性を広げたい」

「スヌーズレンの可能性を広げたい」

「スヌーズレンの可能性を広げたい」